

## 『イヤホン外音取り込みモード♡

# 双子の百合えっち見守りネキ プロローグ SS

～本編の前にお読みください～

シベロンだった、笑わねねだらの。か。

私には五つ離れた高校生の双子の妹がいる。

名前は莉緒（りお）と凜（りん）。

一人とも回じ顔、回じ声、しぐれも風貌もハサウメの明鏡のようだ。

実の親でも前髪の分け目だけで区別しているが、私だけは一目で分かる。おっとりと優しく田をして周りをよく観察しているのが、莉緒。なにか面白こいとはないかといつも五歳児のような田をしている方が、凜だ。

父はエンジニア、母は看護師。

この子たちが物心ついた頃には、一人とも仕事に忙しき我が家をあけていた。小さかった二人が寂しがらないようにと、そして女の子はお嫁に行つてバラになつてしまふからと、父は私たち三人をひとりの部屋で過ごせらるという教育方針をあつと曲げなかつた。

「嫁に」……ね。そんな時代じゃないつての」と、凜はいつも鼻で笑つていたつけ。

この双子はそんな忙しい両親に代わりに、まだ小学生だった私と、近所に住んでいてたまに手伝いに来てくれる叔母とで育てたようなものだが、私は子供ながらにこの子たちが可愛くてしようがなくて、愛情いっぱい育ててきただつむりだった。

でも、やがて父と母には勝てない何かがあつたのか、ふたりはこつむりもりとお皿ごの振舞を埋め合ひながらして、お皿ごの運びをしていたものと思ひ。

……だから、「じぶん風」になつてしまつたことは、私は幼たる前のじぶんのよ

うな、自然な流れのよつな氣がしてこぬ。なるよつになつた。われだけのじじだ。

ふたりは思春期になつてから、こつしかお互いを意識しあい、最近といつう付  
き合い始めたよつなのだ。

……よつなのだ、といつのは、私はふたりからは直接何も聞かれていないか  
りであつて、様子を見ていてそつなんだつなど思つてこぬだけだ。

じじでばだか、こつねつ告白したことがある。

最近のイヤホンに外の音を収音して取り込むモードがあるのを知り、私は今、  
日々それを駆使してふたりを見守つてこる。

いけないことだとわかつてこる。

でも、ふたりが傷つくことのよつは、悲しこじことがないよつは、こつでも  
なにからも守れるよつは、ふたりのことを向くかも知つておけだこ。

親心で……と言つて、この罪は許されるだらうか。

本当は三姉妹でいつも乗り越えていたと思つていたのこ、のけ者にされたよ  
うな寂しさからじやないだらうか。

そんな葛藤を抱えながら、いけないお姉ちゃんだけ……今日も私は、ふたり  
がこじこじとなにかを始めただにいのイヤホンを着けた。

……ふたりのやばに居たこ。

→ 本編へ続く